



人をつなぎ 未来をつなぐ
明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

大久保南小コミュニティ・スクールではこんなことが

大久保南小学校では7月9日に第1回学校運営協議会が開催されました。

大久保南小校区は市内でも新しい校区です。運営協議会にはそうした新しい大久保南小校区を盛り上げていこうと始まった「ふれあい祭り実行委員会」のメンバーの方も委員として入っておられます。学校運営協議会より前に開かれた「ふれあい祭り実行委員会」では、新しいまちで始まった祭りの成り立ち、そして比較的新しいまちだから抱える課題等が話題になり、その中で次のような考えがだされたようです。

「・・・・大久保南地区が将来直面する地域高齢化などの諸問題においては地域住民のつながりが大きな支えとなること、あるいは地域の子どもたちにとって安全な地区を作っていくためには地域の住民のつながりが不可欠であることを考え、本祭りの開催趣旨を今一度地域全体で共有したいと考えます。とりわけ本年は老若男女が楽しめる「盆踊り」に工夫を凝らし来場者から来年祭りのスタッフとして携わることの意欲構築の一石になるようにしていきたい。その思いが将来の街づくりのエネルギーの基礎となるように大きな視野で取り組みたい。」



この意見の中にはまちづくりを進める当事者を集めつなげていく場として「盆踊り」を活性化していきたいという思いがこめられているように思います。

学校運営協議会では地域で行われているこうしたいろいろな取組が見つないでいきながら、学校・地域・保護者の目指すゴールをはっきりさせ、横のつながりを深めていくのも大きな役割だと考えます。

そうした話を受け、地域の思いを受け止め計画・実施されたのが「1・2年生の盆踊り練習」です。

「まちを盛り上げていこう」、「まちづくりの仲間を増やしていこう」という思いのこもった「盆踊り」に向けての「1・2年生の盆踊り練習」です。普通なら「学期末の忙しい時期に、なんで・・・」といった声が聞こえてきそうです。「盆踊り練習は、今年は急には難しいので来年からやりましょう」ではアイデアの賞味期限が切れてしまいます。大久保南小のように地域の思いをキャッチし、やれることからやっていくという体制が少しずつ広がっていけばいいなと思っています。

この大久保南小学校の取り組みは新学習指導要領のキーワードである「社会に開かれた教育課程」を考えるヒントになるのではと思っています。

盆踊り練習が終わり、練習が終わって汗びしょりで体育館から帰る子どもたちが、教えてくださった高齢の方とハイタッチをしながら帰っていくようすを見てやってよかったと校長先生は思われたようです。

24日の盆踊り本番では、例年以上に盆踊りの輪にはいる子どもたちの数が多かったようです。こうしたことが地域を活気づけていくことにつながっていくんだなと感じた方も多かったのではと思います。

(文責：CSコーディネーター 北本章)